

Southern Cross

サザンクロス

Vol.59 2011.5

●編集発行
 公益財団法人 郡山地域テクノポリス推進機構
 郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会
 〒963-0115 福島県郡山市南2丁目52番地 ビック/レイトふくしま3階
 TEL (024)947-4400 FAX (024)947-4475

■郡山地域テクノポリス推進機構ホームページ <http://www.techno-media.net6.or.jp/>
 ■インキュベーションセンターホームページ <http://www.monodukuri.net6.or.jp/>
 ■Eメール【テクノポリス】 techno@nm.net6.or.jp
 【ニューメディアコミュニティ】 info@nm.net6.or.jp

郡山地域テクノポリスは、高度技術産業の蓄積による新事業創出を導く、東北のサザンクロス(南十字星)となることを目指します。

■特集……………P1-2

●こあいさつ

この大震災下、公益認定法人として
 引き続きその使命を果たす
 (公財)郡山地域テクノポリス推進機構 理事長 丹治一郎

●特別寄稿

知的財産と技術移転
 日本大学 副総長・工学部長 出村克宣

平成22年度 事業報告

■テクノピック……………P3-8

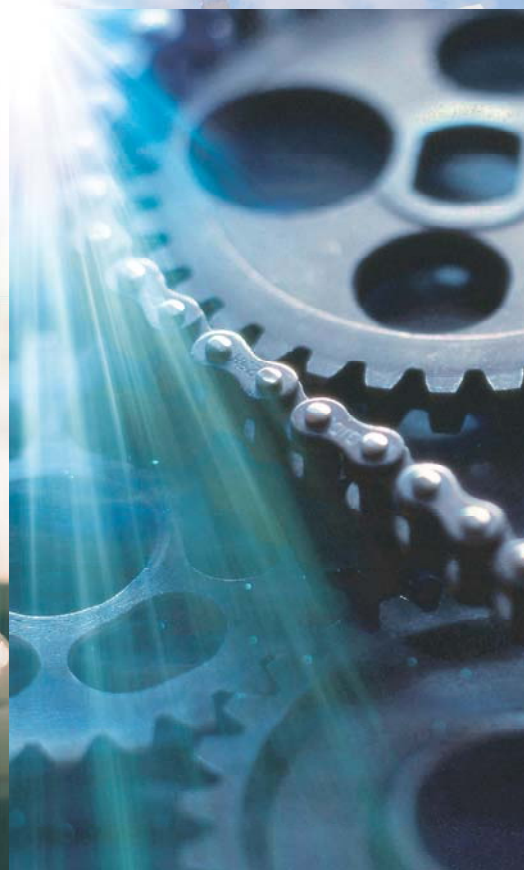
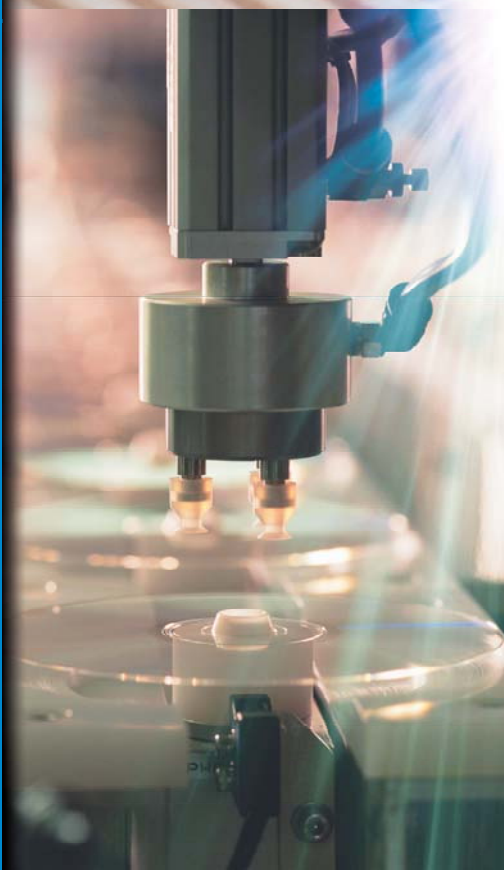
- インキュベーションセンター入居企業成果発表会
- 地域間産業交流支援事業の報告
- Meister's College(マイスターズカレッジ)
- テクノポリス新春講演会2011
- 日本政策金融公庫特別講演会及び中小企業者のための「融資制度・支援制度」説明会
- 第11回 産・学・官連携フォーラム

■テクノナウ……………P9-21

- 新事業創出育成事業……………P9-10
 - ものづくりインキュベーションセンターだより
- 人材育成事業……………P11-13
 - 起業家育成支援事業
 - 情報化人材育成・研修事業
 - IT高度利用推進事業
 - IT交流プラザ活動報告
- 東日本大震災影響調査報告……………P14
- 研究会活動報告……………P14-18
 - 戦略的アライアンス形成会議
 - 環境保全・共生科学技術研究会
 - 医療・福祉機器等関連新事業創出研究会
 - 機能性材料・製造プロセス研究会
 - アドホック研究会
- 研究開発・事業化コーディネート…P19-20
 - 平成22年度助成事業
 - 技術コーディネート支援報告
- 共催事業報告……………P21
 - 郡山市ものづくりマッチング交流会
 - 須賀川市企業間ネットワークセミナー
 - ユニバーサルデザインものづくりフェア

■テクノインフォメーションP22-23

- 平成22年度理事会等の開催報告
- 平成23年度の主な事業・イベント
- 役員・職員の紹介



この大震災下、公益認定法人として 引き続きその使命を果たす



公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構

理事長 丹 治 一 郎

このたびの「東日本大震災」により、被害に遭われた郡山テクノポリス圏域の企業の皆様並びに関係各位に対し、心よりお見舞い申し上げます。

震災によって多くの人命を失うとともに、交通網をはじめとするインフラ網も多大の損害を受け、必要な部品や資材の入荷が滞るなど、ものづくり企業にとって正常な事業の再開には、まだまだ克服すべき課題が山積しております。

加えて、アラブ諸国の政情不安定等の影響で原油高や原材料の高騰に見舞われており、誠に厳しい経営環境にあります。

こうした状況下にあって、当法人は、中小企業の支援機関として、従前にも増して、その使命を果たして参ります。

ご承知のとおり、当法人は、関係各位のご理解とご支援により、「公益法人制度改革3法」に基づく「公益財団法人」への移行が認定され、平成22年6月10日付けの設立登記をもって新たな法人として再スタートいたしました。

その設立目的は、産業技術基盤の強化に必要な業務を効果的に行うことにより、高度技術に立脚した工業開発を促進し、もって郡山地域テクノポリスの形成、ひいては福島県産業の振興に寄与することにあります。

このため、産学官の連携を強力に推進しながら、「圏域企業の技術力の強化」やそれを担う「ものづくり人材の育成」を図るとともに、インキュベーションセンターを拠点に「新事業の創出や研究開発の支援」等、企業の要望・要請を踏まえつつ、必要な事業を積極的に展開してきたところであります。

昨年度は、「環境や新エネルギー」あるいは「景気に左右されない医療福祉機器産業」等をキーワードに、新事業や新産業を早く立ち上げ、圏域の産業活性化

に資する観点から、多くの事業を推進して参りました。

中でも、JETRO(ジェトロ)日本貿易振興機構から「地域間産業交流支援事業」としてタイムリーに採択された当圏域の医療機器関連企業と韓国の(財)原州(ウォンジュ)医療機器テクノバレーとの相互交流事業につきましても、日韓両国の展示会を舞台にそれぞれが数社ずつ出展し、一部企業間では商談も成立するなど理解が深まり、今後更に進展することが期待されます。

また、インキュベーションセンター入居企業による第2回目の成果発表会におきましても、環境・新エネルギーあるいは医療機器関連の新製品や試作品等について、積極的なPRや展示が行われるなど、一定の成果が収められました。

このように、時代潮流に即応して当法人がいくつかの事業運営ができたのは、当圏域でものづくりを中心に活躍する優秀な企業が数多く存在あるいは立地していたからであり、特に「アライアンス(企業連携で共同受注を目指す)」並びに「アドホック(異業種交流で新事業を目指す)」に参画する中核企業群に負うところ大なるものがあり、ますますのご発展をご期待申し上げます。

当法人は、これら圏域企業の先進的な取り組みを支援するため、平成18年に県内で初めて、ものづくり起業支援施設として整備した「インキュベーションセンター」を最大限に活用しながら、新事業創出の支援や技術人材の育成に努めて参るとともに、研究開発への助成や起業化のコーディネートなど、地域産業の活性化に向けての活動を引き続き展開して参ります。

今後も、圏域の中核的な支援機関として、頑張る所存でありますので、関係各位のなご一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

知的財産と技術移転



日本大学 副総長・工学部長

出 村 克 宣

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により被災された方々には、日本大学工学部を代表して、心よりお見舞い申し上げます。本学部は、テーマに掲げ探究している「ロハスの工学」を今こそ地域の復興と、社会の発展のために活かすときと考え、教職員の総力を結集して教育・研究活動に取り組んでまいります。

さて、このような社会情勢においては、産学官連携がこれまで以上に重要な役割を担うことになると考えられる。その場合、大学の保有する知的財産の活用について、産学官での共通認識が重要となる。

一般に、産学官連携においては、大学の知的財産の活用は、「特許」や「製品」のような「もの・物」にのみ商品価値があるとの観点から、技術移転がとらえられているように思われる。しかし、研究者は広範で先端的な専門知識を有しており、それを得るには多くの時間や研究費を費やしている。

その知識を生かして、例えば、「製品に不良があり、生産ラインをみてほしい」と企業から相談があり、「生産ラインをこのように改良すれば、不良は解消される」と相談に応じたとする。そして、「製品の不良は解消され、売れ行きも良好」という成果を生むことがある。このような活動の場合、特許の場合のロイヤルティに相当するような明確な対価設定が成されていないことから、技術移転という範疇ではとらえられてこなかったように思われる。

しかし、このような行為、換言すれば「こと・事」の実施も技術移転の範疇でとらえられるべきであり、ノウハウなどに関する秘密保持や権利の保護などについては、今後、産学官が連携してその在り方を明確にする必要がある。

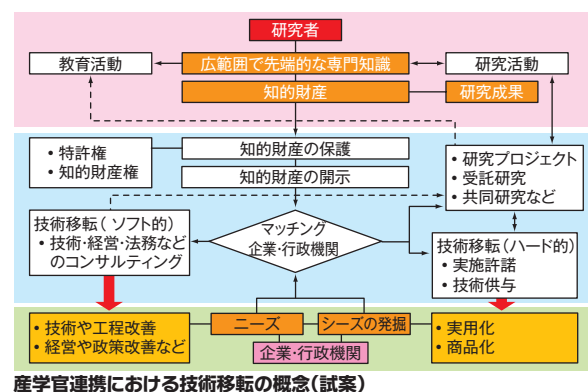
対価設定に関する議論は他にゆずるとして、産学官連携における大学からの技術移転は、創出し保有する知的財産の提供であり、具体的には、コンサルティングのようなソフト的なものと商品開発のようなハード的なものから成ると考えている。そこで、産学官連携における大学の知的財産の活用としての技術移転の概念を図のように位置付けてみた。

研究者は研究活動を通して得た、広範で先端的な専門知識を基盤として教育・研究活動に従事しており、その成果が、研究者が提供できる知的財産といえる。

一方、企業や行政機関は、商品開発、商品の改良、社会基盤整備のための技術や施策などのニーズを持っていると共に、学との連携において、活用可能なシーズの発掘も期待している。それらと開示された知的財産のマッチングにおいて、その価値が見出された場合には、技術移転が成立することになる。

知的財産のハード的活用としての技術移転は、特許の実施許諾や技術供与のような形でなされ、その後、実用化・商品化となる。時には、研究プロジェクトや受託・共同研究を生み、研究者の研究活動にフィードバックされる。又、技術移転の一連の過程において、学生の参加があれば実践教育としての効果が期待できる。

知的財産のソフト的活用としての技術移転は、技術・経営・法務などに関わるコンサルティングと位置付けられ、その成果が技術や工程の改善、経営や政策の改善として現れる。また、そこから研究プロジェクトなどが生まれることも期待でき、知的財産のハード的活用につながるようになる。大学の保有する知的財産の活用としての技術移転をハードとソフトという観点でとらえてみた。今後とも、幅広い視野で技術移転の在り方をとらえ、地域の活性化のために大学の知的財産を有効活用していただきたいと考えている。



郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター 「入居企業成果発表会」

開催日 平成22年11月11日(木)
場所 インキュベーションセンター
成果発表企業 入居して1年以上経過する9社
参加 約80名
主催 (公財)郡山地域テクノポリス推進機構

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構では、「郡山地域ものづくりインキュベーションセンター」入居企業の研究成果を広く周知するとともに起業化・事業化を支援するため、昨年度に引き続き「入居企業成果発表会」を開催しました。

今回は、各企業の発表に先立ち記念講演を開催し、日本大学工学部の尾股教授に「産学連携と技術移転」と題し、ご講演をいただきました。

次に、現在インキュベーションセンターに入居している9社より、各企業10分間のプレゼンテーションを行い、それぞれ技術の有用性や特長などを来場者に訴えました。

その後、試作センターにおいて、入居企業3社による製品発表会を開催しました。

また、ポスターセッションでは、各ブースにおいて各企業の製品やパネルなどの展示を行ない、研究成果を披露しました。

当日は、約80名の来場者があり、入居企業の「ものづくり」に対する情熱を感じていただきました。

当財団では、今後も、入居企業の研究成果の発表の機会を提供して参ります。



尾股教授記念講演



製品発表会



ポスターセッション

成果発表企業一覧

支援室No.	名称	本社所在地	業種等	研究開発成果
1,7	株式会社ピーアンドエム	会津若松市	精密機械器具製造	走査型触覚顕微鏡の開発
2	株式会社タウザー研究所	郡山市	医療機器の設計開発	ハイブリット型ヘッドセットの開発研究
3	林精器製造株式会社	須賀川市	精密機械器具製造	表面処理の高度化に関する研究開発
4	神田産業株式会社	須賀川市	段ボール箱の製造販売	段ボールに付加価値を付けた商品の開発に付随する生産技術の開発
5	株式会社 アクトメディカルサービス	福島市	医療機器企画・研究・販売	カフなし血流・血圧計の開発
8	株式会社向山製作所	大玉村	電子部品組立加工	県産の食材を使用した食品(スイーツ)の研究開発
9	特定非営利活動法人 福島おらが街ふるさと創り研究会	郡山市	構造物非破壊試験研究開発	三次元熱赤外線診断システム 重量コンクリート
10	クリーン・エネルギー・ネットワーク 有限責任事業組合	郡山市	自然エネルギー研究開発等	福島県バイオマス発電技術 開発支援事業(生ごみ→電気)
11	株式会社リゾーム	郡山市	精密機械器具製造	球面カム バイオマス発電事業

地域間産業交流支援事業の報告

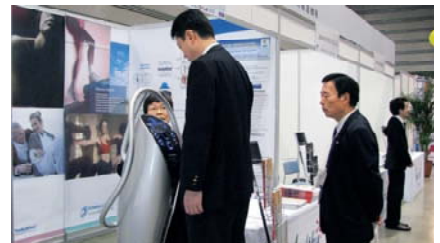
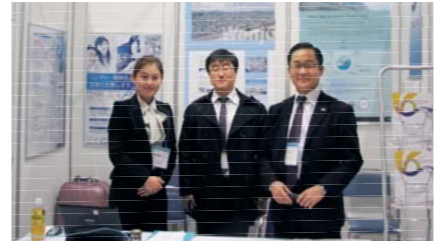
「福島県 郡山地域」と「韓国 江原道 原州地域」との医療福祉関連機器開発プロジェクトの推進

事業実施体 【日本側】(公財)郡山地域テクノポリス推進機構
事業支援体 【韓国側】(財)原州医療機器テクノバレー
 独立行政法人 日本貿易振興機構

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構は平成21年9月より「ジェットロ(日本貿易振興機構)」の中小企業向け支援事業の一つである『RIT (Regional Industry Tie-up Program) : 地域間産業交流支援事業』の活用を通して、「テクノポリス圏域及び近隣産業集積地の中小企業群」と「韓国 江原道 原州地域の医療機器産業クラスター」とで医療・福祉関連機器の相互研究開発や商品化・市場化を目的に、専門家による派遣調査、日韓双方での研究会の実施及び相互視察など、医療福祉機器産業分野で多角的な交流活動を行ってきました。

その結果、日韓の両地域は同産業分野で国際連携を促進し新製品及びシステム並びにサービス開発などに係る新産業の創出を行おうとする意志を確認し、同年11月には、「(公財)郡山地域テクノポリス推進機構」と「(財)原州医療機器テクノバレー」とで『医療福祉機器開発 相互技術協力協定』を締結しました。

平成22年度は両地域間の信頼の絆を基に、更なる産業交流を強化・推進すべく、医療・福祉機器開発に係る技術調査、技術情報の相互交換を行いながら、両地域で医療・福祉機器開発に係る啓発セミナーやシンポジウム及び技術の情報交換等を行い、地域間産業交流支援事業の進展に拍車がかかった。10月には韓国 江原道 原州市に於いて開催された「江原 医療機器展示会GMES2010」に郡山地域の企業4社(アルファ電子(株)、乾マタニティクリニック、(株)コスモテック、(有)マサル精機)が、11月には「メディカルクリエーションふくしま2010」に、原州医療機器産業クラスターの企業5社(株)TS Meditech、(株)JejoongMedical、(株)BusungMedical、(株)JungwooTM、(株)CARE Tek)がそれぞれ初出展して、日韓相互で試作品・完成品、医療設備、高品質工業部品・機能性材料等の出展や製造プロセスの展示・提案等を行い、企業間の個別商談等も積極的に実施され、技術提携や商品の受発注を促進してきました。この「地域間産業交流支援事業」は平成23年度も継続し、力強く推進して行きます。



「メディカルクリエーションふくしま2010」へ
韓国の医療機器生産企業が初出展



原州市にある「江原テクノパーク原州ベンチャー公園」



「江原テクノパーク原州ベンチャー公園」の
入居企業による製品開発説明



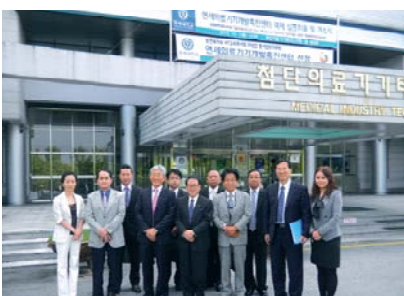
郡山地域企業と「(財)原州医療機器テクノバレー」との
共同開発に係る協議



郡山地域の企業4社が参加した
「江原医療機器展示会GMES2010」の開会式



同展示会場内での郡山地域の出展企業



郡山地域企業による韓国の医療機器開発のメッカ
(財)原州医療機器テクノバレーの視察



韓国のバイオメディカル産業のメッカで
原州市の隣にある「春川バイオ産業振興院」

「Meister's College 2010」(マイスターズ・カレッジ2010)

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構では、ものづくり中小企業の中核となる技術者の方々を対象に、日本大学工学部・福島県立テクノアカデミー郡山等との産学連携により、基盤的製造技術の高度化を図る人材育成事業として、平成18年度から継続開催している「Meister's College」(マイスターズ・カレッジ)を実施しました。

◎先端加工技術コース

研修期間 平成22年9月7日(火)～12月16日(木)

場所 郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター / 日本大学工学部

参加 21名

「先端加工技術コース」は、日本大学工学部の教授等を講師に迎え、期間中の延べ15日間(開講式、座学(10日)、実習(4日)、工場見学・閉講式)にわたり、製造技術等に関する基礎から専門分野までの多様な知識と要素技術の研修を行いました。

10テーマ中、座学を2時間うち4テーマについては、座学と関連した実習を3時間行い、合計32時間のプログラムを受講しました。また、実習は、受講生を2グループに分けた少数精鋭により行い、各受講生が実際に機械操作などを体験しました。



座学研修



実習「ウォータージェットの基礎と加工」



実習「脆性材料の特殊加工」



実習「ロボット制御技術」

受講者アンケートでは…

「今まで知る事がなかった新しい技術や製造方法に触れる事ができた良い機会であった」

「様々な分野の勉強ができて良い経験になった」などの声がよせられました。

■講座／講師一覧

<p>●座学</p> <p>「さまざまな産業分野におけるウォータージェット技術の利用」</p> <p>【講師】日本大学工学部機械工学科 教授：清水 誠二 氏</p>	<p>●実習</p> <p>「ウォータージェットの基礎と加工」</p> <p>【講師】日本大学工学部機械工学科 教授：清水 誠二 氏</p>	<p>●座学</p> <p>「実用金属材料の基礎」</p> <p>【講師】日本大学工学部総合教育 教授：藤原 雅美 氏</p>	<p>●座学</p> <p>「材料強度と特殊加工」</p> <p>【講師】日本大学工学部機械工学科 教授 橋本 純 氏</p>
<p>●実習</p> <p>「脆性材料の特殊加工」</p> <p>【講師】日本大学工学部機械工学科 教授 橋本 純 氏</p>	<p>●座学</p> <p>「トライボロジー—摩擦・摩耗・潤滑の世界—」</p> <p>【講師】日本大学工学部機械工学科 准教授：伊藤 耕祐 氏</p>	<p>●座学</p> <p>「電子材料と半導体デバイス」</p> <p>【講師】日本大学工学部電気電子工学科 教授：清水 博文 氏</p>	<p>●実習</p> <p>「シリコンデバイスプロセスにおける酸化膜作製と評価」</p> <p>【講師】日本大学工学部電気電子工学科 教授：清水 博文 氏</p>
<p>●座学</p> <p>「画像処理の基礎」</p> <p>【講師】日本大学工学部情報工学科 教授：加瀬澤 正 氏</p>	<p>●座学</p> <p>「ロボット技術を用いたサステナブルシステムの構築」</p> <p>【講師】日本大学工学部機械工学科 助教：遠藤 央 氏</p>	<p>●実習</p> <p>「ロボット制御技術」</p> <p>【講師】日本大学工学部機械工学科 助教：遠藤 央 氏</p>	<p>●座学</p> <p>「生産情報システム」</p> <p>【講師】日本大学工学部情報工学科 教授：白井 健二 氏</p>
<p>●座学</p> <p>「多軸工作機械とその評価技術」</p> <p>【講師】日本大学工学部機械工学科 准教授：齋藤 明德 氏</p>	<p>●座学</p> <p>「3次元計測技術の利活用」</p> <p>【講師】日本大学工学部情報工学科 助教：溝口 知広 氏</p>	<p>●工場見学</p> <p>「住友ゴム(株)白河工場」</p> 	<p>●閉講式</p> <p>※「マシニングセンタ入門コース」と合同で実施</p>

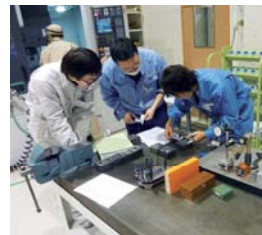
◎マシニングセンタ入門コース

研修期間 平成22年10月6日(水)～12月16日(木)
場 所 郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター
参 加 11名

「マシニングセンタ入門コース」は、福島県立テクノアカデミー郡山の先生方を講師に迎え、期間中の延べ9日間(開講式、座学(3日)、実習(5日)、工場見学・閉講式)にわたり、研修を行いました。

2時間×3日の座学にて、マシニングセンタの概要、プログラミングの基礎及び応用動作のプログラムについて説明を受けました。

実習は、受講生を2グループに分けた少数精鋭により行い、3時間×5日の実習にて、手動操作、段取り操作、プログラム操作などを各受講生が体験しました。最後に、まとめとして、プログラム作成から加工までを実践的に実習しました。



マシニングセンタ操作入門(実習)

■講座／講師一覧

「マシニングセンタのプログラム入門」
「マシニングセンタ操作入門」

【講師】福島県立テクノアカデミー郡山
 精密機械工学科 教務 成瀬 哲也 氏
 教務 小野 裕道 氏

受講者アンケートでは…

「プログラムの基礎がよく理解できた。」「講座の内容が分かりやすく、今後の業務に役立つと思った。」などの声が寄せられました。

◎MOTコース

研修期間 平成22年11月15日(月)・11月17日(水)
場 所 郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター
参 加 7名

「MOT(ものづくり技術経営学)コース」は、昨年から引き続き福島大学 共生システム理工学類 准教授 石岡 賢 氏を講師に迎え、2日間の短期演習(ゼミ)を行いました。受講者がテキストの内容をまとめてパワーポイントファイルを作成してプレゼンした後、質疑応答を兼ねたディスカッションを行い講師からの解説を受けました。

**●講座「コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント(基本編)」**

【講師】福島大学 共生システム理工学類 准教授 石岡 賢 氏

●演習

- ・価格設定戦略と価格プログラムの策定
- ・バリュー・ネットワークおよびチャネルの設定と管理
- ・小売業、卸売業、ロジスティックスのマネジメント
- ・統合型マーケティング・コミュニケーションの設計とマネジメント
- ・人的コミュニケーションの管理
- ・グローバル経済におけるマーケティングの管理

受講者アンケートでは…

「価値ある講座であった。」「接する機会のない情報をいただき、大変役に立つと共に楽しく受講できた。」などの声が寄せられました。

ちびっ子マイスターズ・カレッジ「プログラム作成体験教室」

開催日 平成22年8月7日(土)～8日(日)
場 所 日本大学工学部 情報研究棟
参 加 親子8組16名
主 催 (公財)郡山地域テクノポリス推進機構／日本大学工学部

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構では、日本大学工学部と連携し、小学生を対象にものづくりの楽しさと科学への理解を深めることを目的とした子ども向け事業「ちびっ子マイスターズ・カレッジ」を開催しました。

今回は、小学生の夏休みを利用した親子参加型の体験教室で、小学4年生から6年生までの高学年とその保護者を対象とした「プログラム作成体験教室」を実施しました。

講師に日本大学工学部情報工学科の武内淳教授、金子正人専任講師をお迎えし、同大学術文化サークル情報研究会の学生が補助員として親子1組ずつに付き、懇切丁寧にサポートしました。

教室では、親子で実際にパソコンを操作して、教育用プログラミング環境「Scratch」を使用したプログラムを作成し、パソコン上の絵を動かしたり、ロボットの動作を制御したりする楽しさを体験しました。

子どもたちは、武内教授が驚くほどパソコンの操作が上手で、プログラム作成を通じ「ものづくり」の楽しさ、そして「科学」への興味を深めていました。

当財団では、今後も、小・中学生向けの企画を実施する予定です。



PC操作によるプログラム作成



作成したプログラムの発表

テクノポリス新春講演会2011「勝ち残る企業の条件」

～我が社を勝ち組み企業にするための原理・原則～

- 開催日 平成23年1月25日(火)
- 場所 ホテルハマツ 2階「開成の間」
- 参加 約120名
- 主催 (公財)郡山地域テクノポリス推進機構
- 共催 郡山地域テクノポリス市町村協議会／郡山地域テクノポリス推進協議会／郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会



今回の講演会は、40年以上に亘る経営の現場経験と実績に基づいた“今日から役に立つコンセプトとノウハウ”の“実論”提供として、勝ち組み企業の仲間入りをするため、経営の原理・原則について、5つのポイントに絞って具体的にお話していただきました。

講師

株式会社 国際ビジネスブレイン 代表取締役
元ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 代表取締役社長 新 将命氏



講演内容

1. 勝ち残る企業創りの流れ

- (1)原点 —— ヒト
- (2)持続性(サステナビリティ)の条件としてのCSR
- (3)良い満足(SATISFACTION)と悪い満足(COMPLACENCY)

2. 経営(者)品質の5大条件

- (1)情熱(PASSION)
 - ①情熱の5つの型 ②情熱を持続させる2つの方法
- (2)方向性(DIRECTION)
 - ①理念 ビジョン=どうなりたいか
使命感=誰のために何をするのか
価値観=何が大切か
—— ジョンソン・エンド・ジョンソン～「我が心情」
—— 「人は大きなことを信じた時に大きな仕事をする」
—— 企業理念が業績に対して及ぼすインパクト
 - ②目標
—— 目標 = 理念 + 数字
 - ③戦略
—— 目標を達成するための大枠としてのやり方
(儲かる仕組み・ビジネスモデル・ロードマップ)
—— (限られた)経営資源の最適配分
—— 戦略の最大ポイント(3C)
 - ・コア・コンピテンス(我が社の得意業)
 - ・コンセントレーション(集中)
→シナジー(相乗効果)を伴う多角化
 - ・チェンジ(環境変化に対応した機敏な変わり身)

3. 商品(PRODUCT)

- “消費者に認知できる差別化とコスト競争力を持った新商品の流れの提供”
- 5:3ルール(J&J)・4:3ルール(3M)・2:4ルール(HP)
- 差別化不在のもたらす弊害

1. 今、どこだ?(現状認識の共有)
2. どうなりたい?(理念・目標)
3. 誰が何をどうやる?(戦略・戦術)
4. どうなった?
(PDCのCによる評価・学習・反省・改善)

4. 顧客(CUSTOMER)

- 真の顧客満足とは
- 2軒の酒屋の物語
- CS(顧客満足)からCD(顧客かつ)

顧客の反応と行動

- 事前調査 > 事後評価
- 事前調査 = 事後評価
- 事前調査 < 事後評価

5. 社員(EMPLOYEE)

- (1)社員満足の3K

1. 買うべき理由(Reason To Buy)
2. 選ばれる会社(Preferred Company)
3. 勝ち残る会社(Winning Company)

日本政策金融公庫 特別講演会 及び 中小企業者のための「融資制度・支援制度」説明会

- 開催日 平成23年2月18日(金)
- 場所 ビッグパレットふくしま 4階「プレゼンテーションルーム」
- 参加 約50名
- 主催 (公財) 郡山地域テクノポリス推進機構
- 共催 (株)日本政策金融公庫、郡山商工会議所

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構では、中小企業等の経営基盤の強化、新事業への挑戦や新技術・新製品の開発促進に資するため、日本政策金融公庫、郡山商工会議所と共に説明会を開催し、引き続き各機関の支援制度を有効に活用していただくため、各個別相談会も開催しました。

特別講演

テーマ 「景気の「気」気持ちの「気」～景気調査と新規開業実態調査から見えてくるもの～」
講師：(株)日本政策金融公庫 郡山支店 支店長兼国民生活事業統轄 西 秀貢氏

- 融資制度の説明 担当：(株)日本政策金融公庫 郡山支店 国民生活事業 営業課長：鈴木 和幸氏
- 経営支援制度の説明 担当：郡山商工会議所 中小企業相談所次長兼産業振興課長 中小企業診断士：塚本 龍憲氏
- 支援制度の説明 担当：(公財)郡山地域テクノポリス推進機構 インキューベーションマネージャー兼技術コーディネーター：宮越 稔



制度説明風景



講師 西 秀貢氏



個別相談風景

第11回 産・学・官連携フォーラム (平成22年度 第4回 IT交流プラザ)

去る10月28日、日本大学工学部50周年記念館において、今年度で11回目を迎えた「産・学・官連携フォーラム」を開催しました。

まず始めに、主催者挨拶として、(公財)郡山地域テクノポリス推進機構 理事長 丹治 一郎(代理 評議員 内藤 清吾)、日本大学工学部長 出村 克宣 氏がそれぞれ挨拶しました。

技術講演では、「環境にやさしい革新的なモノづくり」をスローガンとして、郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議の会員企業である(株)コスモテック 代表取締役 谷島 昇 氏、ものづくりインキュベーションセンター入居企業である(株)ピーアンドエム 取締役 山口 隆義 氏、日本大学工学部の柿崎隆夫教授及び柴田宣教授が事例報告と研究成果を産学連携の観点から発表しました。

技術講演

テーマ 「福祉・環境・リサイクル・食の安全」と当社の取り組みについて
講師:株式会社コスモテック 代表取締役:谷島 昇 氏

テーマ 「医療機器産業へのアプローチ」P&Mの取り組み
講師:株式会社ピーアンドエム 取締役:山口 隆義 氏

テーマ これからのライフサポートとライフセキュリティ
講師:日本大学工学部機械工学科 教授:柿崎 隆夫 氏

テーマ 超広帯域FM一括変換技術を用いた光映像配信システム
講師:日本大学工学部電気電子工学科 教授:柴田 宣 氏

開催日 平成22年10月28日(木)
場所 日本大学工学部 50周年記念館
参加 約180名
主催 (公財)郡山地域テクノポリス推進機構
日本大学工学部工学研究所
郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会



フォーラム光景

主催者挨拶

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構 評議員
(郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議 会長)
内藤 清吾

**主催者挨拶**

日本大学工学部長 出村 克宣 氏

**ふくしま地域産学官連携フォーラム**

開催日 平成23年2月9日(水)
場所 郡山ビューホテルアネックス
参加 約180名
主催 (公財)郡山地域テクノポリス推進機構
(公財)福島県産業振興センター／東邦銀行／日本大学
共催 福島大学／会津大学／福島県立医科大学

去る2月9日、郡山ビューホテルアネックスにおいて、「ふくしま地域産学官連携フォーラム」を開催しました。

このフォーラムは、福島地域の大学の研究技術シーズ事業化への取り組みや、同地域の産学官連携の裾野を拡大することを目的としたものです。

第一部では、産学連携拠点提案大学による研究シーズ発表会として、福島大学、会津大学、福島県立医科大学及び日本大学工学部が、先進的技術の事例を紹介するとともに、各々のブースにおいて取り組んでいる研究シーズを展示しました。

第二部では、安全保障貿易管理等に関する危機管理セミナーとして、企業・大学における安全保障輸出管理や海外における知的財産法令及び政策等について講演を行いました。



フォーラム光景



研究シーズ展示ブース

第一部 産学官連携拠点提案大学による研究シーズ発表会

テーマ 「接着しないとされる材料を接着する技術」
講師:福島大学 共生システム理工学類 教授:金澤 等 氏

テーマ 「会津大学の新技术について」
講師:会津大学 産学イノベーションセンター 准教授:甘泉 瑞応 氏

テーマ 「がん組織の体系的遺伝子発現解析から得られるがん検査」
講師:福島県立医科大学 臨床ゲノム学講座 教授:渡邊 慎哉 氏

テーマ 「変形性関節症の早期・初期計測診断技術の提案」
講師:日本大学工学部 専任講師:長尾 光雄 氏

第二部 安全保障貿易管理等に関する危機管理セミナー

テーマ 「企業及び大学等における安全保障輸出管理について」
講師:(財)安全保障貿易情報センター 輸出管理アドバイザー:後藤 政志 氏

テーマ 「中国及び東南アジアにおける知財関連法令と知財政策について」
講師:TMI総合法律事務所 弁護士:長坂 省 氏・和藤 誠治 氏

ものづくりインキュベーションセンターだより



建物外観

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構では、国、福島県、郡山市、日本大学工学部等の支援を受け、平成18年8月に「郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター」を日本大学工学部キャンパス内に建設し、その管理・運営を行っています。

同センターは、ものづくりによる新たな産業の創出を促進するための支援施設で、企業等の入居スペースのほか、研究開発による試作品を製作するための工作機械を備えた東北初の試作センターや40人収容可能な会議室を併設しています。

また、研究開発・事業化支援のための専門家を配置し、様々なサポートをハード・ソフトの両面から提供するとともに、郡山地域を中心とした大学等の知的財産や産業支援ネットワークを活用し、入居企業等の要望に応じて、技術シーズの事業化を支援しています。

さらに、入居企業の研究成果を広く周知するために、「成果発表会」の開催やセンター内の「展示コーナー」への成果品展示など、PRの機会を提供しています。

支援メニュー

新製品の研究開発による新事業創出の成功確率を高めるため、研究開発の指導者がいる大学の敷地内に、試作品を設計・製作する《場》、試作のための基本的な《設備》、経営・技術両面での支援のための《人材》、そして、研究開発成果を広く発表する《機会》を提供します。

場 日本大学工学部キャンパス内に新製品の研究開発拠点として、低廉な料金で入居可能な起業支援室(11室)を提供。(24時間365日利用可)

設備 試作品の製作に必要な各種工作機器を備えた試作センターを併設。(高精度立体加工用マシニングセンタ等を設置)

人材 ●インキュベーションマネージャーによる経営・技術両面でのアドバイスや各分野の専門家・支援機関などの紹介。

●技術指導員による試作センターでの試作品製作の際の技術指導。

●技術コーディネーターによる研究開発・起業化の助成支援、各分野の研究会開催、大学・公設試験研究機関等の研究者との連携。郡山テクノポリス圏域企業によるアライアンス(企業連携)形成への参加等。

機会 入居企業の研究開発成果をマスコミや関係者に広く周知し、起業化・事業化を支援するための成果発表会やセンター内の展示コーナーへの成果品展示などの機会を提供。



起業支援室(実験室タイプ)



起業支援室(事務室タイプ)



ロビー



試作センター

NUBIC(日本大学産学官連携知財センター)郡山サテライトの開設……………研究開発・事業化コーディネート事業

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構と日本大学の連携により、郡山地域における知的財産・産学官連携活動を活性化し、日本大学及び企業間の共同研究、技術移転等を通じて地域産業の発展・推進に寄与するため、「郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター」内にNUBIC郡山サテライトを平成19年7月から開設し、地域企業の皆様の技術開発等に係る相談に応じています。

(相談件数:19年度 10件、20年度 14件、21年度 23件、22年度 17件)

また、平成20年度から、当財団とNUBICのコーディネーターが直接企業を訪問しシーズを紹介する「出前セミナー IN 企業」も開催しています。(開催件数:20年度 3件、21年度 4件、22年度 4件)

主な相談内容

- 日本大学に属する研究者、研究シーズ、知的財産等の紹介、共同研究、技術指導等の斡旋
- 知的財産制度、その運用等に関する情報提供
- 研究開発支援制度、産学連携支援制度等の紹介など

☆郡山地域をはじめ県内の中小企業・個人等が対象です。
☆相談は無料です。

※開設日時:毎月第4水曜日、午前10時から午後4時まで。事前申し込みが必要です。

※開設場所及び申込先:郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター

※「出前セミナー IN 企業」を希望される企業については、開催日時等について調整が必要となりますので、事前に上記申込先へご相談ください。



技術相談



出前セミナー

平成22年度
の主な動き

入居者
審査
委員会の
開催状況

1)入居者審査 ……………8月24日

- 1件の申込みがあり、審査の結果、1企業が新たに入居。支援室No1 (株)ピーアンドエム(9月1日入居)

2)入居者延長審査

- 第1回 7月16日(5企業の更新決定)
- 第2回 8月24日(2企業の更新決定)
- 第3回12月22日(2企業の更新決定)

入居企業
成果
発表会

11月11日に「第2回入居企業成果発表会」を開催しました。(詳しくはテクノトピックスをご覧ください。)

入居企業紹介

新事業創出育成事業

支援室No.①

入居企業名: (株)ピーアンドエム
業種等: 精密機械器具製造
本社所在地: 会津若松市
入居日: 平成22年9月1日
主な研究開発用件:
医療機器、分析・解析機器の開発
会社PR: リニアガイドの設計、製造技術を活かした、精密加工を得意とする会社です。



走査型触覚顕微鏡

支援室No.②

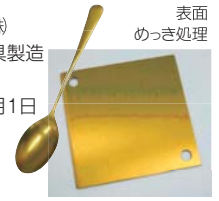
入居企業名: (株)タウザー研究所
業種等: 医療機器の設計開発
本社所在地: 郡山市
入居日: 平成20年2月1日
主な研究開発用件:
①能力開発用オリジナルヘッドセットの事業化
②光デバイスによる血流検出装置の開発及び事業化
会社PR: 大学及び研究所で使用する実験装置の開発設計、および新規デバイスの啓発研究



ハイブリッド型ヘッドセット

支援室No.③

入居企業名: 林精密製造(株)
業種等: 精密機械器具製造
本社所在地: 須賀川市
入居日: 平成21年9月1日
主な研究開発用件:
①めっきの高度化に関する研究開発
②医療機器などの高度化を旨とした製品に関する研究開発
会社PR: 各種腕時計側の製造及び電子機器部品製造、省力機械の設計、製作



表面めっき処理

支援室No.④

入居企業名: 神田産業(株)
業種等: 段ボール箱の製造販売
本社所在地: 須賀川市
入居日: 平成20年2月1日
主な研究開発用件:
①段ボール製造業における、各種生産設備、検査設備の販売
②段ボール素材による付加価値商品の開発
会社PR: 明治30年材木商を始め、木箱・段ボールと包装にかかわる事業を展開。



ハニカム材全面印刷機

支援室No.⑤

入居企業名: (株)アフトメティカルサービス
業種等: 医療機器企画・研究・販売
本社所在地: 福島市
入居日: 平成18年9月1日
主な研究開発用件:
カフなし血流・血圧計の開発
会社PR: エンドユーザーの意見をダイレクトに取り入れた商品開発



カフなし血流・血圧計

支援室No.⑧

入居企業名: (株)向山製作所
業種等: 電子部品組立加工
本社所在地: 大玉村
入居日: 平成18年9月1日
主な研究開発用件: 福島県産の食材を使用した、福島県をアピールできる様な食品の研究開発
会社PR: フード事業: オリジナルレシパの生キャラメル13種類を開発。



向山製作所 郡山表参道カフェ

支援室No.⑨

入居企業名: 特定非営利活動法人 福島おらが街ふるさと創り研究会
業種等: 構造物非破壊試験研究開発
本社所在地: 郡山市
入居日: 平成18年10月1日
主な研究開発用件:
①三次元熱赤外線診断システムの開発
②重量コンクリートの試作・製品化、配合特許などの開発
会社PR: 計画的維持管理(アセットマネジメント)に関する事業提案を行います。



開発ソフト

支援室No.⑩

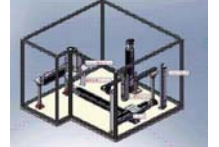
入居企業名: クリーン・エネルギー・ネットワーク有責任事業組合
業種等: 自然エネルギー研究開発等
本社所在地: 郡山市
入居日: 平成18年8月21日
主な研究開発用件:
・福島県バイオマス発電技術開発支援事業(生ごみ・電気)
・固体高分子型燃料電池の安定化、省エネ制御の開発
会社PR: 循環型資源の活用と地球温暖化防止等を理念とした商品化を進めている。



メタン発酵実験装置

支援室No.⑪

入居企業名: (株)リゾーム
業種等: 精密機械器具製造
本社所在地: 郡山市
入居日: 平成21年9月1日
主な研究開発用件:
①球面カムを使用したMEMS化商品試作とパレラルロボットの直行駆動部の試作
②グリーン・エネルギー・ネットワークLLPでの共同開発: バイオマス発電事業
会社PR: 1996年6月設立、資本金1,000万円、社員数65名
所在地: 本社(郡山)・営業所(福島・宇都宮・浜松)



画像検査装置

展示コーナーのご案内

センター内の「展示コーナー」に入居企業の研究成果品を展示してありますので、ぜひご覧下さい。



No.	展示商品名	入居企業名等	支援室No.
1	マイクロデバイス	乾マタニティクリニック(株)ピーアンドエム連携	7
2	完全無血培養液	乾マタニティクリニック(株)ピーアンドエム連携	7
3	アクチュエーター	(株)ピーアンドエム	7
4	乳がんチェッカー	(株)タウザー研究所	2
5	尿失禁診断装置	(株)タウザー研究所	2
6	聴覚感度ヘッドホーン	(株)タウザー研究所	2
7	聴覚感度調整器	(株)タウザー研究所	2
8	燃料電池	グリーン・エネルギー・ネットワークLLP	10
9	血流計	アフトメティカルサービス	5
10	人体模型ガラス管一式	(株)ウィルファイン(卒業企業)	—
11	バスケットワイヤーカテーテル	(株)ウィルファイン(卒業企業)	—
12	最小侵襲手術用鉗子	(株)フツコ(卒業企業)	—

コラム
COLUMN
IMから

「温室ガス削減目標見直し」を嘆く

政府が温室効果ガス排出量の25%削減目標を見直す方針を示したのは、目標達成の前提となる原子力政策の推進が、原発事故で崩れたためとされます。原発に代わる電力供給は火力発電所を中心に担うしかなく、政府はエネルギー政策と地球温暖化対策の抜本的な見直しを迫られています。

化石燃料の大量消費などによって温室効果ガスが急激に増加すると、過剰な温室効果が発揮されて地球の温度が上昇し、地球温暖化によって気象や気候に影響を与えてしまいます。ご存知の海面水位の上昇により、低地の陸地が失われるなど様々な影響が心配されています。

地球温暖化の影響を食い止めるためには、政府は2020年までに1990年に比べ温室効果ガスの排出量を25%削減する目標を表明、対策強化に乗り出したばかりの時の見直しなので残念でなりません。

今そんな状況の中でバイオマス事業が注目を集めています。入居企業の「グリーン・エネルギー・ネットワークLLP」は福島県の支援を受けて「バイオマス発電事業」に乗り出し成果をあげています。皆一人ひとりが地球温暖化防止のために尽力し、子々孫々に、この素晴らしい青い地球を引き継ごうではありませんか。

起業家育成支援事業「ドリームゲートセミナー」

開催日 平成22年11月27日(土)
場所 郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター
参加 23名
主催 (公財)郡山地域テクノポリス推進機構
 郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会

郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会と連携し、4年目となる「ドリームゲートセミナー」を開催しました。
 ドリームゲートセミナーは、起業家の育成支援、及び意識の高揚を図ることを目的に、経営力や交渉力、決断力やチャレンジ精神を身につけ、「起業家」的感覚を学んでもらうためのセミナーです。

「ベンチャーわいがや塾」として、テクノポリス圏域の起業家(経営者)3名の方を講師に迎え、講演会及び意見交換会を行いました。
 参加者は、講演や各講師との懇談を通して「経営者の感覚を持って仕事をする」ということの大切さや、主体的に物事を捉えることの重要性を学びました。

講師
 (株)内藤工業所/エヌケー・テック(株) 代表取締役 内藤 清吾 氏
 (株)コンピューターシステムハウス 代表取締役専務 本田 啓之 氏
 (有)ばすわーど 代表取締役 水上 哲夫 氏



講演



意見交換会

情報化人材育成・研修事業

ICTリーダー研修講座

開催日 平成23年3月5日(土)
 3月6日(日)
 3月9日(水) 3日間
 ※東日本大震災により
 3月12日(土)、3月13日(日)開催分は中止。
場所 日本大学工学部 第一演習室
参加 14名
講師 日本大学工学部 情報工学科 専任講師
 田中 宏卓 氏
 (株)エフコム 紺瀬 祐子 氏・渡部 律 氏
 伊藤 和子 氏
主催 郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会
 (公財)郡山地域テクノポリス推進機構
 日本大学工学部
共催 福島県高度情報化推進協議会

日本大学工学部と連携し、地域や企業等におけるICT化推進のリーダーとなる人材を育成するため、「ICTリーダー研修講座」を実施しました。平成22年度は、ICTに関する基礎知識といえる「ITパスポート試験」の内容を網羅するほか、職場などですぐに役立つ様々な関数の活用など、より実践的な内容を盛り込んで実施しました。
 また、事業実施にあたり、福島県高度情報化推進協議会の資金援助を受けました。



プレゼンテーション実習

開催日 平成23年3月8日(火)
場所 (有)ばすわーど PC研修室
参加 11名
講師 (有)ばすわーど 代表取締役
 水上 哲夫 氏 / 松本 美幸 氏
主催 郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会
 (公財)郡山地域テクノポリス推進機構

営業に限らず、仕事上で社内外の人を相手に説明をする機会は多く、その際に相手の心を掴み、分かりやすく伝え、説明する技術は欠かせません。
 平成20年度からの継続事業として、ビジネスパーソン必須の基礎知識といえる「プレゼンテーション」を体系的に学んでいただくために、須賀川市の(有)ばすわーどの協力を得て「プレゼンテーション実習講座」を開催しました。

■研修内容
 前半…パワーポイントの講習
 後半…プレゼンテーション作成・発表、
 講師による講評



IT高度利用推進事業

「MTDDC Meetup FUKUSHIMA 2010」

開催日 平成22年11月6日(土) **参加** 80名
場所 ヒップバレットふくしま

- 講師内容**
- Session 1:「僕がMTを勧める理由」
 (有)ITプロフェッショナル 代表取締役 蒲生 トシヒロ 氏
 - Session 2:「Movable Type 5.1の新機能」
 シックス・アパート(株) 執行役員 金子 順 氏
 - Session 3-1:「Movable Typeのプラグインでできること」
 フリーライター 藤本 春 氏
 - Session 3-2:「MTプラグインを活用した実践 Tips・LT」
 (ライトニングトーク)
 (株)Gazi工房 代表取締役 原 一宣 氏
 (株)Gazi工房 赤井なつみ 氏
 dreamseeker代表/MTDDC Meetup FUKUSHIMA実行委員長 國分 亨 氏
 - Session 4:「Movable Type on Business」
 ～ 地方の小規模組織が勝ち抜く
 Web構築ビジネスの戦略と施策 ～
 アルファサード(有) 代表取締役 野田 純生 氏

MTDDC(Movable Type Developers & Designers Conference)は、Movable Type(有名ブログのシステム)ユーザーを対象とする大規模なカンファレンスです。
 これまでは東京と大阪でしか開催されていませんでしたが、今回、Movable Typeの開発元であるシックス・アパート株式会社の協力を得て、郡山において、地方版初となる「MTDDC Meetup FUKUSHIMA 2010」を開催する運びとなり、地元福島クリエイター有志(CSS Nite in FUKUSHIMA実行委員会メンバー)が主催して開催しました。
 郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会は共催として、開催に協力しました。



IT交流プラザ活動報告

郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会は、(公財)郡山地域テクノポリス推進機構と連携し、「ICT」をキーワードに圏域企業やSOHO・個人等を対象に会員を募り、情報交換や情報収集、交流の場を設けています。

また圏域内ICT化支援のため、ITやホームページの利活用、最新のWeb技術動向などについて「IT交流プラザ事業」を実施し、IT交流プラザ会員だけでなく圏域企業等にも役立つセミナーなどを開催しています。

平成22年度は以下の事業を実施しました。



IT交流プラザ

第1回 IT交流プラザ 「地域活性化のためのTwitter活用セミナー」(情報化人材育成・研修事業と連携)

開催日 平成22年5月27日(木)
場所 ビッグバレットふくしま
参加 43名

講師・内容

- ・「Twitterによる行政情報発信」
会津若松市 情報政策課 目黒 純 氏
- ・「Twitterで街づくり」
秋田県横田市 NPO法人Yokotter
理事長 細谷 拓真 氏

今や個人ユーザーばかりでなく、政治家・著名人をはじめ、企業や自治体・商店街などでも重要なコミュニケーションツールとして活用が進んでいるミニブログサービス「Twitter(ツイッター)」についてのセミナーを開催しました。



「はじめてみよう! Twitter」勉強会

(情報化人材育成・研修事業と連携)

開催日 平成22年6月2日(水)
場所 郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター
参加 13名

講師

dreamseeker 國分 亨 氏

第1回IT交流プラザの内容を踏まえ、アカウントを取得し実際に「つぶやく」までのTwitterの基本的な使い方や、使用上の注意点などについての勉強会を開催しました。



第2回 IT交流プラザ 「企画力」養成セミナー

(情報化人材育成・研修事業と連携)

開催日 平成22年10月2日(土)
場所 須賀川市 藤沼湖自然公園内 三世代交流館
参加 32名

講師

(株)ワンパク 代表取締役 阿部 淳也 氏

協力

合名会社 大木代吉本店 蔵元 大木 雄太 氏
 須賀川市 商工労政課 松宮 崇文 氏

新しいサービスを生み出す「企画力」と、その企画をビジネスとして成功させる仕組みを考える力を養うセミナーを、起業家育成支援事業「ドリームゲートセミナー」の関連セミナーとして開催しました。

セミナーではグループに分かれ、地元企業・自治体の抱える課題を聞いた上で、「地元企業・特産品のプランティング」「地域の観光活性化」のテーマに沿って実際に提案をするワークショップを行いました。



第3回 IT交流プラザ「福島の事例で取り組むGoogle Analytics」

(IT高度利用推進事業と連携)

開催日 平成22年10月13日(水)
場所 ビッグパレットふくしま
参加 67名

講師

アユダンテ(株) チーフ・ウェブアナリスト
 アクセス解析イニシアチブ 代表 大内 範行 氏

協力

磐梯熱海温泉旅館協同組合
 理事長 村田 英男 氏

昨年好評であったセミナーの続編として、昨年取り上げた磐梯熱海温泉「きらくや」の上流に位置する「磐梯熱海温泉旅館協同組合」の、Google Analytics(グーグル・アナリティクス:アクセス解析ソフト)のデータを元に、アクセス解析の進め方、サイトの課題を見つげどのように改善していくかについて、実習を交えて取り組みました。



第4回 IT交流プラザ「産・学・官連携フォーラム」

日本大学工学部との共催により、産・学・官 組織の協力体制を強化させるため、各関係機関との連携促進に向けてフォーラムを開催しました。

開催日 平成22年10月28日(木)
場所 日本大学工学部 50周年記念館
参加 約180名

内容

- ・スローガン……………「環境にやさしい革新的なモノづくり」
- ・技術講演……………企業・日本大学工学部

第5回 IT交流プラザ「CSS Nite in FUKUSHIMA, Vol.4『クリエイターのためのプレゼンの極意』」(IT高度利用推進事業と連携)

開催日 平成22年12月4日(土)
場所 郡山地域テクノポリス
 ものづくりインキュベーションセンター
参加 31名

クリエイターに限らず、普段の仕事のなかで「プレゼンテーション力」が求められる場面や、その善し悪しによって流れが変わってしまう場面は数多くあります。そこで、CSS Nite主宰として数多くのセッションに登壇し、またプレゼンを見てきた鷹野氏から「プレゼンの極意」を学び、実際に参加者代表によるプレゼンテーションを行うワークショップも開催しました。

講師

(株)スイッチ 代表
 CSS Nite主宰 鷹野 雅弘 氏



第6回 IT交流プラザ「プロジェクトマネジメント基礎講座」

(情報化人材育成・研修事業と連携)

開催日 平成23年2月26日(土)
場所 ホテルハマツ
参加 39名

協力

(株)ロフトワーク
 チーフディレクター 滝澤 耕平 氏
 シニアディレクター 前田 雅子 氏

プロジェクトマネジメントの世界標準「PMBOK(ピンボック)」に基づいて、Webサイト制作や印刷物制作など、規模や内容に関わらず、様々なクリエイティブのプロジェクトの現場で役立つプロジェクトマネジメントの基礎的な要素を学ぶセミナーを開催しました。



「IT交流プラザ会員データベース」の公開

会員同士の連携・研究・交流を促進し、広くかつ効果的に会員企業をPRするため、昨年度より(公財)テクノポリス推進機構/郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会ホームページ内に会員検索データベースを設置し、「IT交流プラザ会員」情報をWeb上で公開しています。

郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議

戦略的アライアンス形成会議は、郡山地域テクノポリス圏域内の企業が保有する技術力、設備、営業力等の潜在能力を戦略的に活用する組織(アライアンス)を構築することによって、高度な研究開発、新しい受発注及び各種産業振興支援施策の担い手となり、圏域内の産業の活性化を図ることを目的としています。

当会議への入会は随時受け付けています。詳しくはテクノポリス推進機構事務局までお問い合わせください。

戦略的アライアンス形式会議 全体会・交流会

開催日 平成23年2月8日(火)
場所 ホテルハマツ
参加 約40名



当会議では、去る2月8日にホテルハマツにおいて、「全体会・交流会」を開催しました。

各研究会(「環境保全・共生科学技術研究会」・「医療・福祉機器等関連新事業創出研究会」・「機能性材料・製造プロセス研究会」)の開催状況及び受発注の実績、企業訪問の活動状況について事務局から報告した後、SUS(株)の取締役福島事業所長 佐久間 孝市 氏が進出企業としてのプレゼンテーション、アルファ電子(株)の代表取締役 樽川 久夫 氏が会員企業としてのプレゼンテーションを行いました。終了後、情報交換の場として交流会を開催しました。

進出企業プレゼンテーション

講師

SUS株式会社

取締役福島事業所長 佐久間 孝市 氏



自社の会社概要、沿革、主要製品の説明や保有する機械設備、製品の製造過程の紹介など、具体的事例を挙げながらのプレゼンテーションを行いました。

会員企業プレゼンテーション

講師

アルファ電子株式会社

代表取締役 樽川 久夫 氏



自社の会社概要、沿革、製品の説明から新事業(医療機器)への取り組み状況まで、「ものづくりサービス業」としての在り方を中心としたプレゼンテーションを行いました。

東日本大震災影響調査報告

平成23年3月11日(金)午後2時46分、我が国観測史上最大規模のマグニチュード9.0、震度6強の東北地方太平洋沖地震が発生。郡山テクノポリス圏域企業も建物、機械など甚大な被害を受けました。郡山地域テクノポリス推進機構では、関連企業に対して、震災による被害状況及び影響調査を実施しましたので、その概要を報告いたします。

電話による聞き取り調査

- 調査日** 平成23年3月14日～23日
調査対象 製造業、情報サービス、IT関連企業等 56社
調査項目 人的被害、建物等構造物及び機械設備等被害、操業状況
調査対象地域 郡山テクノポリス圏域等 17市町村
調査結果
- ①人的被害: 1事業所で数人負傷者が出たものの、ほとんどの企業で死傷者無し。
 - ②建物等構造物: 本社工場全壊1社、半壊1社、部分的損傷27社、損傷なし27社。
 - ③機械設備等: 全て使用不可2社、一部故障14社、影響なし40社。但し、精密機械類はメーカーの精度点検を要し、確認後に再稼働の予定。
 - ④操業状況: 操業中34社、操業停止22社。建物・機械設備に損傷の無い企業の通常操業を妨げる要因として、ガソリン不足による材料仕入れや製品配送の困難化、従業員の通勤に係る支障が挙げられる。



震災直後のテクノポリス事務局

企業訪問による面談

- 調査日** 平成23年4月8日～28日
調査対象 製造業、情報サービス、IT関連企業等 58社
調査項目 震災後30日～50日の状況
調査対象地域 郡山テクノポリス圏域等 17市町村
調査結果 主な内容

- 仕入先が被災地、或いは避難地域20キロ以内にあるなど部品が調達できない。
- 国内取引においても、放射線残量証明書を求められている。
- 産業廃棄物、鉄くず、スクラップ等放射線汚染の理由で引き取ってくれない。
- 余震が多く、その都度精度検査をしなくてはならない。
- 震災、原発等生産条件が良くない状況下では、県外、国外に生産拠点の移転を検討せざるを得ない。

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構では、産学官連携による研究開発体制の構築を目的に各種研究会活動を支援するとともに、大学等との連携により、技術シーズの紹介・提案、企業ニーズの大学等での検証、シーズとニーズのマッチングによる具体的な産学共同研究開発案件の掘り起こしなどを行っています。現在、分野別に「環境保全・共生科学技術研究会」・「医療・福祉機器等関連新事業創出研究会」・「機能性材料・製造プロセス研究会」の3つの研究会が活動しています。また、異業種交流グループ「アドホック研究会」が郡山と須賀川地域で組織され活動を行っています。以下、これら研究会の活動状況を紹介いたします。

環境保全・共生科学技術研究会

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構と日本大学工学部との共同主催で、同大学の環境保全・共生共同研究センターと連携した研究会です。環境をテーマとした研究シーズを地域の産業界と融合させ新事業創出を図ることが目的です。主な研究テーマは「大気、水質、土壌などの自然環境の保全・修復」、「省エネルギーやグリーンエネルギー」、「廃棄物の処理・リサイクルや未利用資源の活用」、「環境に関する影響評価・分析」、「環境関連装置・環境に調和した製品の開発」などです。

平成22年度 第1回

開催日 平成22年6月18日(金)
場所 日本大学工学部 50周年記念館
参加 約100名

内容

「安全安心な地域づくりとロハス工学の展開」をメインテーマに、日本大学工学部に設置された「ロハスの家」の研究プロジェクトに係る取り組みを紹介し、また、実際に「ロハスの家」を見学していただくことで、今後の展望を探りました。



研究プロジェクト紹介



「ロハスの家」見学

【コーディネーター】

日本大学工学部土木工学科 教授:長林 久夫 氏

【テーマ1】

「ロハスの家のコンセプトと展望」

日本大学工学部機械工学科 教授:加藤 康司 氏

【テーマ2】

「ロハスの家の紹介」

日本大学工学部機械工学科 教授:橋本 純 氏
 准教授:伊藤 耕祐 氏
 助教:武樋 孝幸 氏

【テーマ3】

「ロハスの家1号、2号の見学」

平成22年度 第2回

開催日 平成22年10月14日(木)
場所 丸三木材株式会社(二本松市)
 エコハウスまでいな家(飯舘村)
参加 17名

内容

視察研修会

地域の特色を生かした住みよい住環境づくりをテーマに環境省エコハウス事業に取り組んでいる自治体と、環境負荷低減へさまざまな取り組みを推進している工場を訪問し、視察研修を行いました。



丸三木材(株)

丸三木材株式会社(二本松市)

丸三木材(株)では、木材ゴミの99%リサイクルにより、ゼロエミッション(廃棄物ゼロ)の取り組みを継続して行っています。循環型社会の実現に向けて、実際に取り組んでいるゴミ減量化・リサイクル推進のための活動で、他のモデルとなるような事例を表彰している福島県のゼロエミッション活動コンクールにおいては、「優秀事業所」を受賞しています。

エコハウスまでいな家(飯舘村)

飯舘村では環境省のエコハウス事業として、村民との協働により、環境負荷の低減を図ったモデルハウス『までいな家』を整備し、これを活用した環境共生型の暮らしの普及啓発を展開しています。「までい」とは、「丁寧に」「もったいない」などを意味する方言で、村では、この言葉を理念に掲げ、さまざまな取り組みを行っています。

医療・福祉機器等関連新事業創出研究会

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構と日本大学工学部との共同主催で、同大学の次世代工学技術研究センターと連携した研究会で、今年より、福島県医療・福祉機器研究会と合同で開催しました。医学と工学などの学問の領域を超えた異なる分野の研究体制により新事業創出を図ることが目的です。

平成22年度 第1回

開催日 平成22年8月3日(火)
場所 ビッグパレットふくしま 3階「中会議室B」
参加 約130名

内 容

「医療機器分野の目指すべき道」をメインテーマに、講演、パネルディスカッションを行いました。

【テーマ1】「福島県が目指す医療産業集積構想について」

－世界に誇れる医療機器設計・製造ハブ拠点の形成に向けて－

講師 福島県商工労働部 産業創出課長:仲井 康通 氏

内容 ・うつくしま次世代医療産業集積プロジェクトのこれまでの経過
 ・産学官連携による先端医療機器の開発と地域ものづくり・企業への事業化支援
 ・「地域イノベーションクラスタープログラム」



【テーマ2】「福島県立医科大の世界戦略」

講師 公立大学法人 福島県立医科大学 副理事長:竹之下 誠一 氏

内容 福島県立医科大における産学官連携 ～次世代医療機器開発と福島バイオメディカル産業創出拠点～ について

【テーマ3】「Haptic-Optical技術による優しさと安全性を備えた先端医療機器の開発」

講師 公立大学法人 福島県立医科大学 特任教授 日本大学工学部 教授:尾股 定夫 氏

内容 －世界に誇れる医療機器設計製造ハブ拠点の形成に向けて－

【テーマ4】「医療機器産業の現状と将来新規参入の可能性を探る」

講師 財団法人 医療機器センター附属医療機器産業研究所 主任研究員:中野 壮陸 氏

内容 国の動向と日本の競争力
 ・将来の医療機器市場の予測 ・今後の技術動向



平成22年度 第2回

開催日 平成22年12月9日(木)
場所 日本大学工学部 次世代工学技術研究センター
参加 約50名

内 容

「医療現場におけるニーズとモノづくりのあり方」をメインテーマに、講演していただきました。

【コーディネーター】

日本大学工学部 電気電子工学科 教授:尾股 定夫 氏

【テーマ1】「医療現場で求められるもの」

講師 財団法人 太田綜合病院附属 太田西ノ内病院 ME室長:入谷 隆一 氏

内容 医療を取り巻く環境の変化
 ・医療法、薬事法の改正の背景 ・病院で使われる機器の種類 ・厚生労働省の安全に関する勧告
 ・病院で必要とされるもの ・医療安全に対する病院のニーズ

【テーマ2】「産学官連携の新しいかたち」

講師 株式会社 戦略コンサルティング・ファーム 代表取締役 藤田 忍 氏

内容 福島モデルが生まれた背景
 ・福島モデルの特徴 ・進化する福島モデル

【テーマ3】「技術移転の現状と課題」－産学官連携事業が生み出す新しい可能性－

講師 ヴィード・ヴュー株式会社 取締役副社長:本多 敏博 氏

内容 ・技術移転の現状 ・技術移転の課題 ・技術移転の実績 ・より効果的な技術移転のために

【テーマ4】「韓国 原州医療機器産業クラスターとの相互技術協力」

講師 公益財団法人 郡山地域テクノポリス推進機構 技術コーディネーター:佐藤 彰 氏

内容 韓国の保健医療と医療機器開発の発展と背景
 ・韓国 江原道 原州市の医療機器産業クラスターについて
 ・(財)原州医療機器テクノハブと(公財)郡山地域テクノポリス推進機構との医療福祉機器開発相互技術協力協定について



機能性材料・製造プロセス研究会

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構の主催で、日本大学工学部、福島大学地域創造支援センター、奥羽大学の3大学との共催です。機能性材料と新素材、新製造技術は経済発展の礎となるものであり、研究開発の需要も高い分野です。「新しい材料や製造技術」、「現行の材料や製造技術の改善」などがテーマとなっています。

平成22年度 第1回

開催日 平成22年7月23日(金)
場所 日本大学工学部 次世代工学技術研究センター
参加 40名

内容

日本大学工学部機械工学科及び電子工学科における最近の研究成果について、講演・質疑応答を行いました。

【コーディネーター】

日本大学工学部生命応用化学科 教授:西出 利一 氏

【テーマ1】「リモート ファクトリ マネジメント(RMF)構想」

— SaaSプラットフォームを活用した

中小製造業向け工場経営改善システム —

講師 日本大学工学部機械工学科 教授:柿崎 隆夫 氏

内容 インターネットとデータセンタを活用して、ものづくりを支援する仕組みとして構想された、リモートファクトリマネジメント(RMF)とその実用サービスについて

【テーマ2】「光の干渉を用いた構築物の外力分布評価技術」

フォトリソグラフィ結晶ファイバプローブ」

講師 日本大学工学部電気電子工学科 教授:柴田 宣 氏

内容 フォトリソグラフィ結晶ファイバと呼ばれる光伝送媒体と、この中を伝播する光の干渉を用いて、構築物に働く外力の特徴を評価する測定法について



平成22年度 第2回

開催日 平成22年11月5日(金)
場所 奥羽大学
参加 45名

内容

奥羽大学歯学部及び薬学部における研究成果について講演・質疑応答を行い、併せて構内の施設見学会を行いました。

【テーマ1】「貴金属合金の時効硬化過程」

講師 奥羽大学歯学部生体材料学講座 教授:川島 功 氏

内容 歯科用合金のうち、金銀パラジウム合金の時効処理について

【テーマ2】「電気刺激応答型高分子の作製とその応用」

講師 奥羽大学薬学部 教授:柏木 良友 氏

内容 電気刺激応答型高分子を用いた環境調和型有機合成反応やドラッグデリバリー・システムへの応用について

施設見学 大型機器室、模擬薬局、模擬病室、薬草園(奥羽大学)



施設見学



アドホック研究会

会員相互の技術、情報などの交流と幅広い研究を通して、新技術、新商品、新事業の開発と新市場の開拓を促進するとともに、生産・販売面での相互協力を促進し、会員企業の成長発展と地域産業の振興に貢献することを目的に活動しています。会員は郡山地域テクノポリス圏域内(郡山市、須賀川市、三春町、鏡石町、玉川村、石川町)などの企業経営者・役員です。



12月 合同企業視察

アドホック研究会(郡山)**会員数** 13名**会長** 坂口 進(㈱坂口伝導工機代表取締役)**平成22年度 事業内容**

- ◆ **4月定期総会**
- ◆ **5月例会** 平成22年度事業計画(月別テーマ)の検討
- ◆ **6月例会** 研修会(ものづくりに係る講演会)
演題:「現代のものづくりの価値」
講師:ひさき設計(㈱) 代表取締役 石井 貞志 氏
- ◆ **7月例会** 企業視察研修(鉄工関係企業の視察)
「加藤鉄工(㈱)」 「㈱福島製作所」(福島市)
- ◆ **8月例会** 情報交換会
- ◆ **9月例会** 会員企業等視察
「和田装備(㈱)」 「エスケー電子工業(㈱)」
- ◆ **10月例会** 海外視察研修
(シンガポール・マレーシア:大島工業(株)、
LIS Precision sdn.Bhd視察)
※須賀川方部アドホック研究会と合同研修
- ◆ **11月例会** 「郡山市ものづくりマッチング交流会」への参加
海外視察研修報告会
- ◆ **12月例会** 企業視察
「レンゴー(㈱)福島矢吹工場」(矢吹町)
※須賀川方部アドホック研究会と合同研修
- ◆ **1月例会** テクノポリス新春講演会への参加、情報交換会
- ◆ **2月例会** 企業視察研修
「日本製紙(㈱)石巻工場ほか」(宮城県石巻市)



6月 研修会



2月 企業視察研修

須賀川方部アドホック研究会**会員数** 17名**会長** 水上 哲夫(㈲ぱすわーど代表取締役)**平成22年度 事業内容**

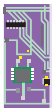
- ◆ **4月定期総会**
- ◆ **5月例会** 平成22年度事業計画(月別テーマ)の検討
- ◆ **6月例会** 講演・見学
演題:「長沼ナタネ・ソバ生産組合の取組みについて」
講師:長沼ナタネ・ソバ生産組合
- ◆ **7月例会** 情報交換会
- ◆ **8月例会** 国内視察研修「(㈱)緒方製作所」(㈱)向陽
(宮城県大崎市・石巻市)
SK21(創経工業会:宮城県北部の異業種交流会)
との交流会
- ◆ **9月例会** 講演・見学
演題:「ロハスの家」
講師:日本大学工学部機械工学科
准教授:伊藤 耕祐 氏
助教:武樋 孝幸 氏
- ◆ **10月例会** 海外視察研修(シンガポール・マレーシア:大島工業(株)、LIS Precision sdn.Bhd視察)
※アドホック研究会(郡山)と合同研修
- ◆ **11月例会** 海外視察研修報告会
- ◆ **12月例会** 企業視察
「レンゴー(㈱)福島矢吹工場」(矢吹町)
※アドホック研究会(郡山)と合同研修
- ◆ **1月例会** 講演
演題:「工業高校でのものづくり教育」
講師:福島県立清陵情報高等学校
情報電子科長:大森 宏昭 氏
- ◆ **2月例会** 講演・事例発表
演題:「健康、省エネ、安全な住居(職場・施設)は可能か」
講師:(有)岡部工務店 代表取締役 岡部 常雄 氏
演題:「コンバートEV製作計画」
講師:千葉工業大学工学部 電気電子情報工学科



4月 定期総会



8月 国内視察研修



平成22年度 助成事業

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構では、テクノポリス圏域内企業や企業グループ(産学連携を含む)等の研究開発や起業化の取組みを支援するため、各種助成事業を設けています。

①F/S支援事業

研究開発や新事業創出等の成功率を上げるために、開発に着手する前段のフィージビリティスタディ(実現可能性・起業化可能性の調査検討=F/S)を行う場合に経費の一部(助成対象経費総額の2/3以内で100万円を限度)を助成します。

②研究開発助成事業

新技術または新製品の開発、生産工程の合理化または製品の高付加価値化、これらに類する技術の高度化に関する研究開発を行う企業、共同研究グループに対して、研究開発に要する経費の一部(助成対象経費総額の2/3以内で300万円を限度)を助成します。

③地域技術起業化助成事業

技術革新の進展に即応した技術を製品化・商品化するため、その事業に向けて必要な商品開発、情報収集、市場開拓等の事業を行う企業や共同研究グループに対して起業化に要する経費の一部(助成対象経費総額の2/3以内で500万円を限度)を助成します。

④債務保証事業

新技術、新製品などの研究開発を行うため、優秀な技術力、製品開発力がありながら資金調達力不足などの理由で、研究開発が促進できない企業のために、研究開発に要する資金の金融機関からの借入に際し、無担保で2,000万円まで債務を保証します。

⑤新技術・新製品市場開拓支援事業

新技術、新製品の新規市場開拓や販路拡大につなげることを目的に行う、産業見本市等への出展に要する経費の一部(首都圏・海外の場合、助成対象経費総額の2/3以内で50万円を限度)及び、市場等の調査、テストマーケティング、アドバイザーの活用など戦略的マーケティングの取組みを行う場合に経費の一部(助成対象経費総額の2/3以内で100万円を限度)を助成します。

平成22年度 助成対象企業

F/S 支援事業

企業名 株式会社 夢づくりいしかわ(石川郡石川町)

F/Sのテーマ:「石川町産トルマリン鉱石を用いた浴用アメニティの開発」

日本三大鉱物産地である石川町産のトルマリン鉱石及び温泉水を配合したボティクリームや化粧水などの浴用アメニティの商品開発について、配合処方や試作品の実使用評価等、実商品化前の調査検討を実施し、地域活性化への貢献を試みるものです。

事業実施期間:平成22年10月15日~23年1月20日

助成交付額:500,000円

トルマリン鉱石を用いたクリーム



トルマリン鉱石を用いた化粧水



新技術・新製品市場開拓支援事業

企業名 医療法人慈恵会 乾マタニティクリニック(郡山市)

見本市名称:韓国 江原 医療機器展示会(GMES 2010)

出展品:体外受精用凍結(ガラス化)保存システム

助成交付額:236,000円

韓国 江原 医療機器展示会会場



企業名 アルファ電子 株式会社(岩瀬郡天栄村)

見本市名称:韓国 江原 医療機器展示会(GMES 2010)

出展品:メンブレンティスプレー(X線撮影装置の操作盤)

助成交付額:435,000円

企業名 有限会社 マサル精機(田村郡三春町)

見本市名称:韓国 江原 医療機器展示会(GMES 2010)

出展品:背骨測定機「Sシミュレーションシステム」

助成交付額:380,192円

韓国 江原 医療機器展示会風景

企業名 株式会社 コスモテック(郡山市)

見本市名称:韓国 江原 医療機器展示会(GMES 2010)

出展品:座面昇降車椅子
医療廃棄物粉砕滅菌装置

助成交付額:353,596円



企業名 株式会社 ひまわり(須賀川市)

見本市名称:全国環整連 第36回 全国大会inふくしま

出展品:フロア用早期異常検出装置、フロア機能検査装置

助成交付額:200,000円

企業名 株式会社 こぶしの里(石川郡玉川村)

見本市名称:まるごとFITフェア2010

出展品:フレーバーソルト、ソルトラスク

助成交付額:273,500円

企業名 和田装備 株式会社(須賀川市)

見本市名称:第17回 建築・建材展2011

出展品:ロートアイアン(鍛鉄、手工芸鍛造)

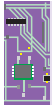
助成交付額:500,000円



韓国 江原 医療機器展示会(アルファ電子、コスモテック)



韓国 江原 医療機器展示会(乾マタニティクリニック、マサル精機)



技術コーディネート支援報告

玉川村の特産品を活用した フレーバーソルトの開発

F/S支援事業
株式会社
こぶしの里



「フレーバーソルト」陳列風景



道の駅「たまかわ」全景



各種フレーバーソルト

玉川村生産物直売所「こぶしの里」は、平成8年に「道の駅たまかわ」として開設、玉川村産の農作物を中心に種々の加工品などを販売しています。新鮮な地場野菜のみならず独自のアイデアから生み出した「しぼりトマトジュース」や「さるなしジュース」、「空芯菜豆菓子」などの人気商品が好評を得ており、年間の施設売上は約2億円、訪問者数は21万6,000人の人気スポットとして玉川村の地域活性化に大きく貢献しています。さらに、平成21年2月には福島空港内にアンテナショップ「空の道たまかわ」をオープンし、JAL撤退後の福島空港の活性化への貢献を担っています。その「道の駅」、「空の駅」にテクノポリスがF/S支援事業をした特産品の乾燥品と塩を混合した調味料である「フレーバーソルト」が販売されています。「フレーバーソルト」は多くの野菜、果実が原料素材として使用可能であり、今後地域の情報発信を通じて地域の活性化に貢献するものと考えています。

向山製作所 表参道カフェオープン

郡山駅前地区の安積国造神社の参道沿いに、向山製作所の飲食事業の新たな展開として、平成22年9月に「直営ショップ&カフェ」がオープンしました。「直営ショップ」では生キャラメルの他に生キャラメルソースプリンや生キャラメルクリームなども販売しています。また「カフェ」ではオリジナル焙煎のエスプレッソやドリンク類、生キャラメルソースをかけて食べるパンケーキなどのフードメニューがあります。スタッフ一同お待ちしておりますので是非お出かけ下さい。

オリジナル焙煎
エスプレッソ



表参道
カフェ



カフェモカ



キャラメルチョコバナナ
パンケーキ



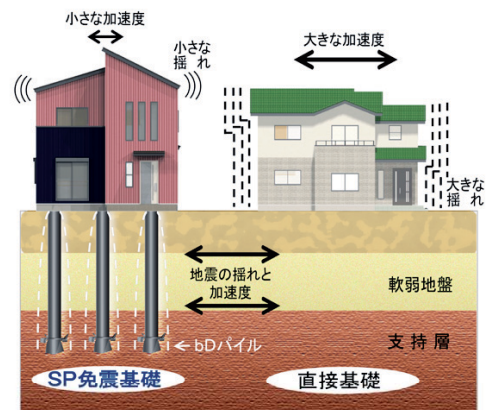
東日本大震災と 世界初SP免震基礎工法

研究開発助成事業
有限会社 住環境設計室

東北地方太平洋沖地震は、マグニチュード9.0という未曾有の大地震と津波により多くの犠牲者を出し、広域にわたる甚大な建物被害をもたらしました。

この巨大地震に対し、日本大学工学部と平成21年に共同開発した「SP免震基礎工法」により建てた住宅では、震度6強の地域にあって建物は無傷、室内にあった人形が一つ倒れたのみ、という免震効果を発揮しました。

免震装置のない免震基礎工法は、安価な工法ながら、住まいの安全と安心を実証しました。



郡山市ものづくりマッチング交流会

開催日 平成22年11月24日(水) **主催** 郡山市
場所 ビッグパレットふくしま **共催** 郡山商工会議所 / 郡山地区商工会広域協議会
参加 約180名 **(公財)郡山地域テクノポリス推進機構**

平成22年11月24日、ビッグパレットにおいて、郡山市主催((公財)郡山地域テクノポリス推進機構共催)による「郡山市ものづくりマッチング交流会」が開催されました。

本交流会は、地域内製造業の活性化を促進するため、企業間の連携による受発注の拡大や新事業創出につながる交流会として、平成20年度から開催しているものです。

当日は、製造業を中心に約100社、約180人が参加しました。

特に今回は、従来の地域製造業間の交流に加え、産業間の垣根を越えた農商工連携の促進による新事業創出を図るため、農業生産者団体が参加し、また、地域製造業の海外取引を促進する観点から、韓国 江原道 原州市から財団法人原州医療機器テクノバレー及び同関連企業5社が参加しました。

第一部の基調講演では、日本全業工業(株) 代表取締役会長 福井 邦顕氏が「経営者の努力が社員を動かす」と題し、講演を行いました。

第二部の交流会では、財団法人原州医療機器テクノバレーのほか、3社が企業プレゼンテーションを行いました。

その後、企業面談が行われ、自由面談では、参加企業が業種間や異業種間での情報を交換し、また、取引や連携を求めて面談を行いました。また、個別面談も同時進行で実施され、会場内に設けられた12の商談ブースにおいて、個別面談を希望した企業と指名を受けた企業の個別面談(約60組)が行われました。

郡山市では、ビジネスチャンスの創出に向け、今後も交流会の開催を予定しています。



基調講演



個別面談

須賀川市企業間ネットワークセミナー

開催日 平成23年2月14日(月) **主催** 須賀川市
場所 ホテル虎屋 **共催** 須賀川商工会議所 / 大東商工会 / 長沼商工会
参加 約80名 **岩瀬商工会 / (公財)郡山地域テクノポリス推進機構**

須賀川市では、市内における製造業企業間のネットワークの拡大推進、地場産業の活性化、及び情報発信や企業間連携による研究開発、取引拡大等のきっかけづくりを目的に「須賀川市企業間ネットワークセミナー」を開催し、当日は49企業団体、約80人が参加しました。

まず、東成エレクトロロビーム(株) 代表取締役社長 上野 保氏が「中小企業は連携で勝ち残り!」と題し基調講演を行った後、地元企業である山本電気(株) 代表取締役社長 山本 弘則氏が企業プレゼンテーションを行いました。また、同市が平成22年度に制定した「工業製品認定制度」により認定となった工業製品の展示、紹介を行いました。



基調講演



市長挨拶

こおりやまユニバーサルデザインものづくりフェア2010

開催日 平成22年11月12日(金)13日(土)
場所 ビッグパレットふくしま
参加 約6,000名
主催 郡山商工会議所 / 工業委員会・工業部会
共催 郡山市 / (公財)郡山地域テクノポリス推進機構
 NPO法人ふくしまユニバーサルデザイン
 郡山地域テクノポリス推進協議会

今年度は、45の企業・団体がユニバーサルデザイン体験型のブースを出展し、「ユニバーサルデザインものづくりの過去・現在・未来」をメインテーマに、ユニバーサルデザインの考え方をものづくりにおける様々な分野に活用させ、企業・団体・学校にとって新たな分野への進出・マーケットの開拓など、ものづくり振興普及・市内製造業者の皆様・ユニバーサルデザインに配慮された商品を利用される皆様の発展に効果的なイベントとして、さらに市民の方々にもより一層ユニバーサルデザインの重要性を理解していただくために開催しました。



UDファッションショー



合唱発表



UD製品展示ブース

イベント内容

- ・「電気バイク・シニアカー試乗会」
100%電気で走行する、エコで環境に優しい最新のバイクを体験しました。
- ・「みんなで作ろう! 体験コーナー」
木製コースター・エコバック・スタンドグラス作りを体験しました。
- ・「ハンドメイドプロジェクト」
「madee(までい)」作品展
作品展は女性に人気でした。
- ・「福島大学ワークショップ」
音環境のあるべき姿を考えました。
- ・「安積中学校・安積第一小学校の合唱発表」
楽都郡山ならではの素晴らしいハーモニーを披露しました。
- ・「UDファッションショー」
今泉女子専門学校による誰にでもやさしい思いやりのある服を披露しました。
- ・「UD自販機ワークショップ」
使いやすい自販機を作ってみました。

平成22年度 理事会等の開催報告

(財)郡山地域テクノポリス推進機構 (平成22年4月1日～平成22年6月9日)

【理事会】

- 第1回** ○月日 平成22年4月20日(火)
○場所 書面表決
○内容 評議員の選任
- 第2回** ○月日 平成22年5月26日(水)
○場所 ビッグパレットふくしま
○内容 平成21年度事業報告及び決算

【監査会】

- 月日 平成22年5月11日(火)
○場所 (財)郡山地域テクノポリス
推進機構事務室
○内容 平成21年度事業報告及び決算

【評議員会】

- 第1回** ○月日 平成22年4月30日(金)
○場所 書面表決
○内容 理事の選任
- 第2回** ○月日 平成22年5月20日(水)
○場所 ビッグパレットふくしま
○内容 平成21年度事業報告及び決算



(公財)評議員会



(公財)理事会

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構 (平成22年6月10日～平成23年3月31日)

【理事会】

- 第1回** ○月日 平成22年7月21日(水)
○場所 ビッグパレットふくしま
○内容 旧法人の平成22年度
事業報告及び決算
新法人の平成22年度
事業計画及び予算
運営基本規程等の制定

【監査会】

- 月日 平成23年4月15日(金)
○場所 書面評決
○内容 平成23年度事業計画及び
収支予算
※3月11日の東日本大震災の影響に
より「決議の省略の方法」で開催

【評議員会】

- 月日 平成22年7月13日(火)
○場所 (公財)郡山地域テクノポリス
推進機構事務室
○内容 旧法人の平成22年度
事業報告及び決算

【評議員会】

- 第1回** ○月日 平成22年7月29日(木)
○場所 ビッグパレットふくしま
○内容 旧法人の平成22年度
事業報告及び決算
新法人の平成22年度
事業計画及び予算
評議員及び理事の選任

ニューメディア コミュニティ 総会 運営委員会

協議会総会

- 月日 平成22年4月16日(金)
○場所 ビッグパレットふくしま
3階 研修室
○内容 ・委員の選任について
・平成21年度事業実績
及び決算について
・平成22年度事業計画(案)
及び予算(案)について

郡山地域ITリエゾン機構

運営委員会

第1回「郡山地域ITリエゾン機構」

運営委員会

- 月日 平成22年4月22日(木)
○場所 ビッグパレットふくしま3階
研修室
○内容 ・平成21年度
事業報告・決算について
・平成22年度事業計画
(各事業方針)
・予算について
・地域ポータルサイトについて

第2回「郡山地域ITリエゾン機構」

運営委員会

- 月日 平成22年9月15日(水)
○場所 ビッグパレットふくしま
3階 小会議室1
○内容 ・平成22年度
上半期事業報告について
・平成22年度
下半期事業計画について

ニューメディア コミュニティ 平成23年度の 主な行事・イベント

- 【5月】総会
【6月】第1回IT交流プラザ
【7月】第2回IT交流プラザ
【9月】第3回IT交流プラザ
【10月】第4回IT交流プラザ
【11月】第5回IT交流プラザ
【12月】プレゼンテーション実習講座
【1月】ICTリーダー研修講座
【2月】第6回IT交流プラザ
※その他、運営委員会、
事業部会等を必要に応じて
開催予定

平成23年度の主な事業・イベント

会議関係

- 【4月】・旧年度の第2回理事会(書面)開催
平成23年度事業計画及び予算
- 【5月】・平成22年度決算監査
- 【6月】・第1回理事会(上旬)
・定時評議員会(下旬)
- 【2月】・郡山地域産業支援機関連絡会議
- 【3月】・第2回理事会

アライアンス・研究会

- 【6月】・アライアンス役員会・総会
- 【7月】・第1回医療・福祉機器等関連寸事業創出研究会
- 【8月】・第1回機能性材料・製造プロセス研究会
- 【9月】・第1回環境保全・共生科学技術研究会
- 【11月】・第2回環境保全・共生科学技術研究会
・第2回機能性材料・製造プロセス研究会
- 【12月】・第2回医療・福祉機器等関連寸事業創出研究会
- 【2月】・アライアンス全体会

事業

- 【4月】・助成事業第1回公募(4/1～5/31)
- 【7月】・技術等審査委員会
・マイスターズ・カレッジ受講生募集
・インキュベーションセンター入居者審査委員会
・ちびっこマイスターズ・カレッジ
- 【9月】・インキュベーションセンター入居企業成果発表会
- 【10月】・マイスターズ・カレッジ2011
(10月～12月)
・助成事業第2回公募(10/1～11/30)
- 【12月】・インキュベーションセンター入居者審査委員会
- 【1月】・テクノポリス特別講演会2012
・技術等審査委員会
- 【2月】・中小企業のための
「融資制度・支援制度」説明会

役員・職員の紹介

公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構 役員

【任期:平成22年6月10日～平成24年6月】 平成23年4月1日現在(順不同・敬称略)

理事長	丹治 一郎	郡山地域テクノポリス推進協議会長 郡山商工会議所会頭
常務理事	熊田 正治	郡山商工会議所常務理事
理事	福井 邦顕	福島県経営者協会連合会会長
理事	滝田 武	郡山地域テクノポリス推進協議会副会長 郡山地区商工会広域協議会会長
理事	境田 孝意	郡山地域テクノポリス推進協議会副会長 玉川村商工会長
理事	出村 克宣	日本大学副総長・工学部長
理事	小沢 喜仁	福島大学共生システム理工学類教授
理事	小貫 忠男	鏡石町産業課長
理事	佐藤 昌宣	石川町産業振興課長
理事	鈴木 孝	玉川村企画産業課長
監事	増子 義記	(株)大東銀行執行役員本店営業部長
監事	新野 徳秋	三春町産業課長

公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構 評議員

【任期:平成22年6月10日～平成26年6月】 平成23年4月1日現在(順不同・敬称略)

評議員	内藤 清吾	郡山商工会議所副会頭
評議員	作田 秀二	郡山商工会議所工業部会長
評議員	林 洋一郎	須賀川商工会議所工業部会長
評議員	白井 健二	日本大学工学部工学研究所長
評議員	榎谷 昭一	(株)東邦銀行常務取締役郡山支店長
評議員	佐藤 達哉	東北電力(株)郡山営業所長
評議員	瀬戸 明人	(公財)福島県産業振興センター理事長
評議員	五十嵐照憲	福島県商工労働部次長
評議員	柳沼 直三	須賀川市産業部長
評議員	渡辺 善信	郡山市商工観光部次長

郡山地域ニューメディア・コミュニティ 事業推進協議会委員

平成23年5月18日現在(順不同・敬称略)

会長	丹治 一郎	(公財)郡山地域テクノポリス推進機構 理事長
副会長	栗山 邦城	郡山市副市長
副会長	出村 克宣	日本大学工学部長
副会長	内藤 清吾	郡山商工会議所 副会頭
委員	長谷部一雄	須賀川商工会議所 会頭
委員	滝田 武	郡山地区商工会広域協議会会長
委員	境田 孝意	玉川村商工会長
委員	阿部 晃造	郡山商工会議所 工業委員長
委員	今田 斉	(株)NTT東日本ー福島 郡山支店長
委員	鈴木 正博	(株)福島情報処理センター 代表取締役社長
委員	酒井 良信	(株)エフコム 代表取締役社長
委員	水上 哲夫	(有)ばすわーど 代表取締役
委員	山沢 修一	福島県企画調整部情報政策課長
委員	仲井 康通	福島県商工労働部産業創出課長
委員	桑田 彰	福島県ハイテクプラザ副所長
委員	菅野 利和	郡山市総合政策部長
委員	柳沼 直三	須賀川市産業部長
委員	木賊 正男	鏡石町総務課長
委員	瀬谷 寿一	石川町産業振興課長
委員	塩沢 邦章	玉川村企画産業課長
監事	角田 武彦	郡山市商工観光部長
監事	斎藤 隆	郡山商工会議所常務理事

郡山地域ITリゾン機構 運営委員会 委員

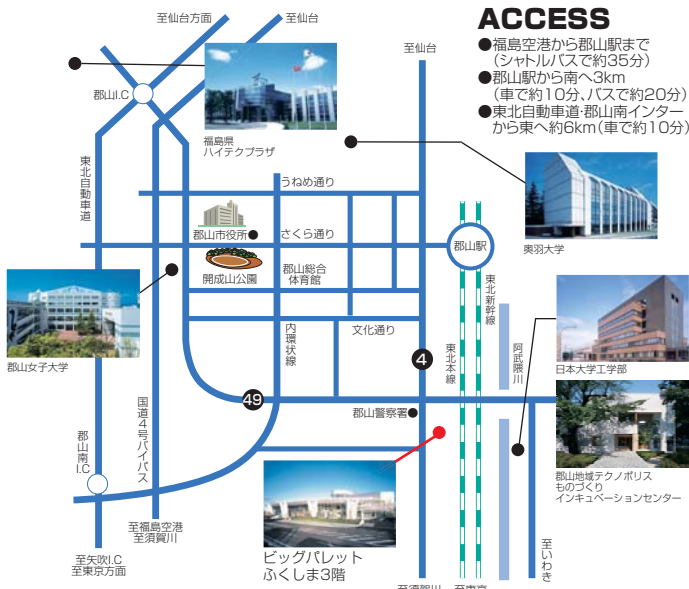
平成23年5月1日現在(順不同・敬称略)

杉山 安洋	日本大学工学部情報工学科 教授
内藤 清吾	エヌケー・テック(株)代表取締役
水上 哲夫	(有)ばすわーど 代表取締役
水野 和彦	(有)ミズノ製作所 代表取締役
本田 啓之	(株)コンピューターシステムハウス 代表取締役専務
鈴木 正広	(株)福島情報処理センター 郡山システム部長
斎藤 正弘	(株)エフコム 副本部長
菅野 昭広	福島県商工労働部産業創出課主査
畠中 秀樹	郡山市総合政策部情報政策課長
石堂 完治	須賀川市産業部商工労政課長
木賊 正男	鏡石町総務課長
瀬谷 寿一	石川町産業振興課長
塩沢 邦章	玉川村企画産業課長

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構・事務局

平成23年4月1日現在

常務理事兼事務局長	熊田 正治	郡山商工会議所出向
事務局次長兼総務部長	本田 信博	福島県OB
企画管理課長	宗像 秀樹	郡山市派遣
技術振興課長	岩崎 弘幸	須賀川市派遣
新事業支援課長	青山 茂夫	大東銀行出向
インキュベーションマネージャー		
兼技術コーディネーター	宮越 稔	
技術コーディネーター	佐藤 彰	
技術指導員(非常勤)	中井 浩二	
技術補助員	新橋 哲也	
情報支援総務担当	村上 瑞恵	
(郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会)		
本部総務担当	鈴木 琴子	
インキュベーションセンター総務担当	小島 千香	



編集／発行

公益財団法人
郡山地域
テクノポリス推進機構

〒963-0115 福島県郡山市南二丁目52番 ビッグパレットふくしま3階
TEL.024-947-4400 / FAX.024-947-4475
E-mail techno@nm.net6.or.jp
URL http://www.techno-media.net6.or.jp/



紙へリサイクル可 この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。環境にやさしい植物油インキと適切に育まれた森から生まれたFSC認証紙を使用しています。